

UDCBK 令和4(2022)年度実施予定事業(案)

1. はじめに

UDCBK は、「草津のまちづくりの推進のために、産・学・公・民が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得て、互いの良さを活かしつつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と情報発信を行う」こととして、各年度の事業計画を立てて取組みを進めてきている。

昨年度策定された「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)」は、将来像を「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」として、草津市としてその実現に向けて各種事業を取組むこととしている。

今年度は、以上をふまえて、産官学民連携によるまちづくりのプラットフォームとして、さらに都市空間をデザインするための学習事業や社会実験の取組み等を展開する。

2. 事業プロジェクト**(1) 都市デザイン連携プロジェクト**

多くの都市で街路空間を車中心から“人間中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って人々が集い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく「街路空間の再構築・利活用」により居心地が良く歩きたくなる街路づくり実現の取組みが進められている。草津市が国交省の進める「ウォーカブル推進都市」に賛同しウォーカブルなまちづくりを進めていることをふまえ、全国の先進事例に学びながら南草津ビジョン推進を「ウォーカブルな都市空間の創造」の側面から関係部署と連携しながら取組みを進める。

<南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進>

多くの車中心の地方都市での駅前の公共空間は主に車の一時停車と歩行者の通過動線として利用されており南草津駅も例外ではない。駅周辺に人が留まることのできる空間が少ないとの問題意識から、人々が滞留したくなる魅力的な空間づくりを建築物の屋内・歩道にまたがる公民連携空間の利用促進により、健幸都市を標榜する草津市らしい「歩いて暮らせるウォーカブルなまち」を実現する取組みを進めてきた。昨年度は社会実験準備事業を活用して4回に及ぶワークショップやアンケートなどを実施した。令和4年度は上記の取組みを継続する。

また、南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりについては、プリムタウン1号公園での経験をふまえつつ、南草津駅西口の東山道記念公園の利活用について、令和元年度から取組んでいる「みなくさまちライブラリー」を活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出の取組みを引き続き進める。

(2) 都市と交通プロジェクト

令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートした本プロジェクトは、令和2年度の市民ワークショップにもとづくシナリオ提案を行い、令和3年度は南草津ビジョンを進めるための学習をセミナー等で実施した。また南草津駅での2回にわたる県・市の交通社会実験から中長期対策として、①交通渋滞の緩和(交通処理

能力を上げる対策、交通量を下げる対策)、②公共交通の利用環境改善(公共交通の利便性向上、歩行者中心の駅前整備)をあげている。

令和4年度は、これらの成果をふまえて 10～20 年後の「歩いて暮らせるウォークアブルなまち」南草津の実現に向けた学習と研究を、草津の副都心である南草津駅周辺と郊外部のそれぞれ固有の課題・共通する課題を整理しながら取組む。産官学連携の研究会をたちあげ地域の理解と協力を得て活動を展開し開始を目指して準備を進める。

なお、交通問題については、関連部課と連携し課題を共有しつつ、歩行者中心の駅前整備課題を中心に取組む。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 7,000 名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組を進めることは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題である。

令和3年度後期から立命館大学 BKC 地域連携課より職員派遣が行われたことを受け、公学連携を進め課題の共有をはかりつつ、BKC のフロントゾーンにおける地域連携の展開も含めて共同の取組みを追求する。

3. 学習事業

学習事業は、当面オンラインでの開講・受講と UDCBK での視聴を基本として運営する。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各 5 回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

また、UDCBK の企画運営を豊かにするために、スクール修了生の参画を可能とする人材育成策を検討する。

(2) アーバンデザインセミナー(年間 15 回程度)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題や関心に応える内容を目指す。

4. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する 7 大学を対象に UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和4年度については、前年度までの枠組みを踏襲した運用をはかりつつ、より草津市のまちづくり、とりわけ南草津ビジョンの実現に資するような取組みを重視して募集する。なお、6月上旬には審査結果・委託額を申請大学へ通知する予定である。

5. オープンスペース

新型コロナ感染症拡大からスペースが制限され、従来の交流・学習・協議が著しく影響を受けたり、学習事業がオンライン形式にシフトするなど利用形態に変化が生じている。また、現在地に移転後、児童生徒の学習スペース利用が拡大し、改めて南草津駅周辺での公共空間が乏しいことが明らかとなった。しかし賃借料が運営費の半分近くを占めることからUDCBKが運営することへの一部の疑問や批判もあることもふまえ、“まちの広場”としてのオープンスペースを当面維持しつつも、UDCBKのミッションに照らしながら本事業の見直しを進める。

6. 情報発信

UDCBKの活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり、UDCBKの基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善を行うことが課題である。昨年は過去のスクール・セミナー受講生データを整理し希望者に対して「メールマガジン」を月1回送付する取組を開始し好評であった。また、本年1月よりFacebookに加えてインスタグラムでの発信も開始した。令和4年度もホームページやSNSでの発信の充実を図る。

7. 法人化検討

全国の自治体で“「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出による「魅力的なまちづくり」が進められているが、その多くがエリアプラットフォームの構築や未来ビジョンの策定による自立自走型システムの構築を目指している。草津市はUDCBKという産学公民連携のプラットフォームをもち南草津ビジョン策定済みという全国的にも一定進んだ取組を行ってきており、また発足時より市営という全国UDCの中でも珍しい運営形態をとっている。

上記のような全国状況やオープンスペースのあり方など、UDCBK事務局内で行ったブレインストーミング等の検討過程も踏まえ、今日的視点から運営形態に関わる検討をさらに深める。

8. その他

(1) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催するとともに、この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBKの各事業に結びつける取組を強化する。

(2) 全国のUDCの先進的な取組に学び、全国組織UDCネットワークとの交流を深める。